

ノウフク・アワード2023応募用紙(記入例)

1. 応募者の概要(必須)	
名称	(ふりがな)かぶしがいいしゃ のうふくや 株式会社農福屋
所在地 (市町村名まで)	〇〇県△△市
取組主体	<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業経営体 <input type="checkbox"/> 農林水産業関係団体 <input type="checkbox"/> 一般社団法人 <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 <input type="checkbox"/> NPO 法人 <input type="checkbox"/> 特例子会社 <input type="checkbox"/> 地方自治体 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> その他()
設立年月日	(西暦) 2010年4月 (設立13年目)
農福連携開始年月日	(西暦) 2015年4月 (開始8年目)
取り組んでいる事業	<input checked="" type="checkbox"/> 農業 <input type="checkbox"/> 林業 <input type="checkbox"/> 水産業 <input type="checkbox"/> 加工業 <input type="checkbox"/> 就労継続支援 A 型 <input type="checkbox"/> 就労継続支援 B 型 <input type="checkbox"/> 就労移行支援 <input type="checkbox"/> 生活介護 <input type="checkbox"/> 放課後等デイサービス <input type="checkbox"/> 高齢者介護 <input type="checkbox"/> 中間支援 <input type="checkbox"/> その他()
農福連携の体系図	〇〇福祉サービス事業所→JA ノウフク(仲介・紹介)→株式会社農福屋 〇〇福祉サービス事業所から施設外就労で収穫、出荷作業等の農作業
認定・取得済みの認証等	<input checked="" type="checkbox"/> 認定農業者(認定新規就農者を含む) <input type="checkbox"/> 6次産業化認定事業者 <input type="checkbox"/> ノウフク JAS <input checked="" type="checkbox"/> 有機 JAS <input type="checkbox"/> GGAP <input checked="" type="checkbox"/> JGAP <input type="checkbox"/> その他の GAP <input type="checkbox"/> その他()

2. 活動のきっかけ(必須) ※200 文字程度で記入してください。
当社は、元々両親と夫婦の 4 人で営農を行ってきたが、両親の高齢化に伴い労働力が不足し、現行の生産規模の維持が困難となった。そこで、地元の JA に相談したところ、障害者の受け入れを提案されたため、試行的に〇〇福祉サービス事業所から施設外就労で収穫と出荷の作業に来てもらった。障害者が丁寧に作業をする姿を見たことで、本格的な受け入れを決め、収穫と出荷以外の作業についても依頼することを決めた。

3. 取組の具体的内容及び成果(効果)(必須)
※審査基準である①人を耕す、②地域を耕す、③未来を耕すについて、活動内容、時期及びその成果(効果)をそれぞれ 400 字程度で記入してください。(審査基準 URL:)
① 人を耕す(工賃や賃金の向上に対する取組、障害者等が管理者や責任者などにステップアップしている事例、一般就労につながった事例、農作業中等の安全管理や健康管理の取組、多様な人々が働くことができる職場環境の創出に関する取組等について記載してください)
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 施設外就労での受け入れについては、工賃の設定を JA に調整してもらい、作業内容に応じた作業単価を決めているが、作業スキルが向上するに伴い、工賃単価も向上する仕組みを採用している。 ◆ 施設外就労で来てもらっていた障害者のうち2名を当社で雇用することとなり、その方に施設外就労で来る障害者の指導役等を担ってもらうことで責任感が生まれ、やりがいをもって農作業に取り組んでもらっている。 ◆ 障害者の目線で農作業の見直しを行うとともに、障害者の体調管理には気を配り、真夏の炎天下の作業では、ほ場内に簡易の休憩所を設営し、熱中症対策に努めている。 ◆ 障害者が農作業で活躍する姿を通じて、職場内や近隣農家の障害者に対する理解が深まり、互いが助け合う環境が生まれている。 ◆ 近隣の農業法人でも当社を参考に障害者の雇用を検討し始めており、地域全体で障害者を受け入れる動きが見え始めている。
② 地域を耕す(農福連携を通じた収益性・生産性の向上、地域の伝統野菜や伝統技術の継承、荒廃農地や遊休農地等の解消、地域の祭りやイベントへの参加、直売所やレストラン・カフェの開設、農作業体験や収穫体験などの開催、地域内の異業種との連携等について記載してください)

- ◆ 障害者を受け入れたことで、新たな雇用にもつながり、労働力不足が解消されただけでなく、障害者に配慮した治具を導入することで、障害者以外の農作業の効率化にもつながった。
- ◆ 労働力不足が解消されたことで、近隣の荒廃農地を新たに借り受けて規模拡大を図り、新たな品目を作付できたことで収益が向上した。
- ◆ 障害者目線で農作業を見直し、安全面でも農薬を不使用とすることで、有機農業に取り組むことができ、新たな販路の拡大につながった。
- ◆ 福祉サービス事業所と連携して、地域の祭りやイベントに定期的に参加し、生産物の販売を行っている。
- ◆ 近隣の特別支援学校を招いて芋掘り体験行うなど、地域内で交流を進めている。
- ◆ 特別支援学校との連携、福祉事業所への農作業委託などを行うことで、若者が多く集まる機会が増えたことにより、地域に活気が戻ってきている。

③ 未来を耕す(先進性・独自性・話題性のある取組、これから農福連携に取り組む団体等の参考となる取組、地域外の異業種との連携、ノウハウ商品の付加価値向上に関する取組、障害者等の目線で農作業の内容を見直すことで作業の効率化につながった事例等について記載してください)

- ◆ 施設外就労での障害者の受け入れや障害者の雇用により農業経営の安定化が図られたことが、テレビや新聞で取り上げられたことから、県内はもちろんのこと県外から視察に訪れる農業法人や JA が増え、近隣の農家でも障害者を雇用する農業経営体が現れてきている。
- ◆ 県や市町村主催の農福連携セミナーに講師として招かれる機会が増えた。
- ◆ 農福連携の取組を知った地域内外のレストランやスーパーなどから農産物を取り扱いたいといった申し出があり、販路が拡大している。
- ◆ 障害者雇用を始める際に労働安全に配慮した環境整備が必要であると考え、JGAP や有機 JAS の取得につながった。

4. 活動実績(必須) ※「項目」は、農地面積、荒廃農地の解消、売上高、障害者等の工賃や賃金、農作業に関わる障害者数、交流人口等、取組実績がわかるものについて、項目ごとに取組当初時と直近5年間の推移を表形式で記入してください。								
項目	単位	取組当初	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 (見込み)
障害者数(施設外就労)	人	3	6	6	6	7	10	10
特記事項(任意): 令和4年から委託先の福祉サービス事業所を2事業所に増加								
障害者雇用	人	0	1	1	2	2	2	2
特記事項(任意): 規模拡大に伴い令和2年度から障害者雇用を2名に増加								
障害者月額賃金(一人当たり)	円		85,000	90,000	90,000	95,000	95,000	100,000
特記事項(任意): 障害者のスキルアップと収益の向上により賃金は増加								
農地面積	a	100	150	150	200	200	300	300
特記事項(任意): 障害者の受け入れにより労働力不足が解消され、近隣の荒廃農地を借り受けて規模を拡大								

※COVID-19を原因として減少または減少となる見込みである場合は、実績値に「※」を記入してください。また、COVID-19関連で実績に影響がある場合は、「3. 取組の具体的内容及び成果(効果)」に影響を踏まえた対応や工夫を記入してください。

5. 活動の主な変遷(必須) ※活動の主な変遷について記入してください。						
取組当初	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 (見込み)
近隣の福祉サービス事業所に農作業委託を開始	障害者雇用を開始	経営の安定に伴い規模を拡大	新たに障害者雇用を行い、2名を雇用	福祉サービス事業所と連携して地域のイベント等に参加。	更に規模拡大を図り、農業ハウスを新設し、トマト栽培を開始	農業ハウスでのトマト栽培が順調のため、更に農地を借り受ける予定

				芋掘り体験を開始		
--	--	--	--	----------	--	--

6. 今後の展開方向(必須) ※200字程度で箇条書きにて記入してください。

- ◆ 地域が高齢化し、離農する農家が増えているので、こうした農地を継承し、今後も障害者雇用の拡大を行う予定である。
- ◆ 施設外就労の障害者の周年就労を図るため、農山漁村振興交付金の活用による農産物加工施設の整備を検討している。
- ◆ 県主催の農福連携セミナーに講師として出席した際に、他の講演者からノウフクJASを取得したことで販路が広がったと聞いたことから、ノウフクJASの取得を検討している。

7. 取組内容がわかる写真等(必須)

※写真、図表等を貼付し、20文字程度で説明を記入してください。取組内容を代表する写真を必ず3枚以上貼付してください。

※第三者の肖像権、著作権、プライバシー等を侵害することのないように十分注意してください。

※写真等を貼り付ける際は圧縮するなどして、Wordのファイルサイズが5MB以下となるようにしてください。

--	--

--	--

8. 表彰等の受賞歴(該当があれば記入)

表彰名等(受賞年度)	主催者

9. 活動に関する PR・エピソード(自由記入、写真、PR動画^④等添付可)(任意)

※600 字程度で記入してください。

--

- ① 記入欄には指定された文字数の範囲内で記入してください(文字の大きさも、当初の設定から変更しないでください)。
- ② ノウフク・アワードは、農福連携の普及啓発を目的に、表彰された取組内容はもちろんのこと、優良な取組事例を全国へ発信することとしており、応募用紙に記載・掲載いただいた内容及び写真については、農林水産省が行う広報活動及びノウフクポータルサイト(ノウフク WEB)への掲載並びに地方公共団体への情報提供等(農林水産省ホームページへの掲載、選定事例集への掲載、政府施策紹介資料への掲載など)に使用することがございますので、あらかじめご了承ください。(個人名については公表、使用はいたしません。)
- ③ 提出いただいた応募用紙等については返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。
- ④ 「9. 取組に関する PR・エピソード」に PR 動画を添付する場合は、動画共有サイト(YouTube / Vimeo 等)やクラウドストレージサービス(OneDrive / iCloud / Dropbox / Google ドライブ)等にアップロードの上、URL を記入してください。